

日本企業のアフリカ進出は続く

日本経済団体連合会 サブサハラ地域委員長
双日株式会社 代表取締役会長 **加瀬 豊**

今年1月、安倍首相は小泉首相以来8年ぶりとなるアフリカ訪問を実現。訪問先は西アフリカの中核国コートジボワール(アビジャン)、南部アフリカで日本が開発支援に力を入れている資源大国モザンビーク(マプト)、最後にアフリカ連合の拠点を持つエチオピア(アディスアベバ)の3カ国であった。また何よりも今回、日本の首相として初めて経済ミッションを伴い、首相自ら日本企業進出の後押しを精力的に行っていた。筆者も経団連サブサハラ地域委員長として同行し、アフリカとの経済交流に意欲的に取り組んでいる他の民間企業の方々と各国で経済交流を深めた。昨年6月には横浜で第5回アフリカ開発会議(TICAD V)が開催され、日本でもアフリカへの関心が大いに高まった。その早期フォローアップの意味からも、また西アフリカ、南部アフリカ、東部アフリカとバランスの良い訪問であったこともあり、アフリカ諸国が日本の本気度を大いに感じ取ってくれたことと思う。

アビジャンにはECOWAS(西アフリカ諸国経済共同体)11カ国の首脳陣が集まり、歓迎晩餐会の後も深夜まで、日本と今後どのように取り組んでいくか議論を重ねたと聞いている。アフリカ側が安倍ミッションを大いに歓迎し、期待を寄せた証左である。マプトでは、日本の政府機関がモザンビークの投資促進センターや経済団体連合と共催で「日本・モザンビーク投資フォーラム」を開催、安倍首相とケブーザ大統領が列席された。筆者もオープニングセッションでスピーチを行い、官民一体フォーラムの大いなる歓迎、モザンビークの豊富な資源開発や農業・水産業のポテンシ

アルおよびナカラ回廊をはじめとするインフラ整備への期待、日本企業進出のためのビジネス環境整備改善を切望する旨の話をさせていただいた。また、同行した20数社の民間企業・団体の代表は、モザンビークでの事業紹介、日本の技術紹介、金融、港湾、医療分野での協力についてプレゼンし、日本企業へのモザンビーク、アフリカにおける取り組みが分かりやすく説明された。最後のアディスアベバでは、日本の積極的なアフリカ政策について安倍首相が力説され、日本企業への進出は現地雇用を生み現地従業員に働く意欲を与え、中・長期にわたるアフリカ産業基盤の強化を促していくものであり、必ずやアフリカの発展・成長に貢献するとの力強いメッセージを送っていただいた。

このミッションでは、アフリカの期待に応え早期の首相訪問を実現させ、主要地域をつなぎ、民間を同行させた外務省の手際が光った。また、TICAD Vの横浜宣言、横浜行動宣言を一つひとつ具現化していく日本の姿勢がアフリカ側に十分に伝わったと思う。しかし、アフリカへの関心は高まっているが、日本企業のアフリカ進出はまだまだギアが入ったばかりで、中国や欧米諸国の活発な動きに比べるとかなり見劣りするのも事実だ。

発展への歩みを始めたアフリカ

アフリカの実情はまだ日本では十分に知られていない。大陸の大きさは想像を絶する。東西7800kmは東京からアメリカ西海岸までの太平洋を覆ってしまう。南北は8000kmとさらに長い。総面積3000万km²の中には中国、米国、インド、欧州の大部分が収まる巨大な大陸である。(日外協HP内<http://>